

よかところ通信

2014年9月号

O2Farm【オーツーファーム】 大津耕太&愛梨
〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両井 587
Tel&Fax : 0967-62-3730
E-mail: mail@o2farm.net
O2FarmWeb : www.o2farm.net

ついに収穫の秋がやってきました！皆さんいかがお過ごしでしょうか。今年の稲刈りは去年より5日遅れでスタート。取り急ぎ、みなさまに今月お届けする分の刈り取りは無事に終わりました。実はこの遅れで、この通信を書いている今も、収量や味がどうだったか、まだ私たちも分かっていない状況です。皆さんより一足先に試食できる予定ではありますが、それを待っていると通信を書き終わりませんので、どんなお米がどれくらいできているのか分からないままのご報告となります。



8月は記録的な日照不足でした。そして受粉期に台風が来ました。棚田の田んぼはイノシシにもやられました。昨年が就農以来はじめての豊作だったのですが、今年はいったいどうなるのでしょうか…。田んぼごとの差もあるので、全部刈り終わってみたいと分かりません。今年は苗の出来栄えが良く、幸先の良いスタートだったのですが、お天道様のご機嫌だけは人間の力ではどうにもなりません。豊作でなくても良いので、せめて平年並みにとれていることを祈るばかりです。



明るいニュースだってもちろんあります。先月の植物に続いて、昆虫の絶滅危惧種が見つかったのです！昨年から受け入れている、農環研こと「農業環境技術研究所」に所属する若手研究者さんの農業研修も4人目となりました。今回は昆虫の専門家。子供たちの喜びよと言ったら！夜な夜な凶鑑を引っ張り出したり、一緒にクワガタ捕りに出かけたり。専門家の方も心底虫が好きとのことで、子供たちと一緒に、いやそれ以上に夢中になって虫を捕ったり調べたりして



いました。こんな面白い人が我が家にいるのに、幼稚園に行くなんて！とても思ったのでしょう。讚太郎は自主休園をして、一緒に田んぼや草原の虫取りにいそしんでいました。そしてその甲斐あって、日本で絶滅が危ぶまれている「絶滅危惧種」に指定されているゲンゴロウが2種類も発見されました！「コガタノゲンゴロウ」と「クロゲンゴロウ」です。今回は農業研修で来ているので、「来年また改めて調査に来ます」ですって。楽しみです！



お天気の良い日がとにかく少ない夏でしたが、今年で4回目になる「子供合宿」も天気に恵まれませんでした。東京から2名、横浜から2名、熊本市内から2名の計6名、それに我が家の3名。楽しそうにしているので近所からも子供たちが泊まりに来たりして、大勢に囲まれた騒々しくも笑いに包まれた日々。全員が「リピーター」だったので、子供たちは田舎のおばちゃんのところに来た感覚で、天気がどうあれ自由のびのびと過ごしていました。今回一番の変化を遂げた

のは、お手伝いに来てくれた早稲田大学の学生さん。環境教育のお兄さんのつもりで来たようでしたが、「指導を必要としない子供たち」に触れて大いに刺激を受けたようです。大人が教えるなんて

とんでもない。自然の中では子供たちの方がずっとクリエイティブで、ずっと柔軟なんです。それに気付いてくれたのは大きな成果でした。



夏休みは相変わらず千客万来で、どこにも遠出はしませんでした。変化や刺激に富んだ毎日でした。遊びに来る人ばかりでなく、合宿に来た小学生をはじめ、地元の中学生在が話を聞きに来たり、高校生が農業体験をしに来たり、大学生がゼミ旅行の途中に立ち寄ってくれたり。

若い人が本当にたくさん来てくれました。合宿同様、彼らに何かを教えようなんて思っていません。若いゆえに、ここの良さを自ら感じてほしい。彼らにとって「また来たい場所」でありたいなあとしみじみ思ったものでした。



稲刈り直前ではありましたが、先週、東京水道橋にあるAPO（アジア生産性機構）にて、アジア17ヶ国から来日されているメディア関係者の前で、お話しをする機会を頂きました。どんなに経済が発展しても、失ってはいけないのが農業と農村。農家がない国、農業が続けられない国の行く末は戦争だと思えますから。だからこそ、農家でいることに誇りを持って、今後も続けていきたいです、と言って話しを終えたら、インドから来ていた記者さんから、「生き活きとした日本の女性農家の姿はアジアの希望です」と言っていました。他にも、丸の内朝大学で世界農業遺産についての授業をしたり、福島で再生可能なエネルギーの話をしたり。不惑とはとても言えませんが、40台に突入して「業務」の種類が増えてきた気がします。「百姓」とはよく言ったものですね（笑）。



稲刈りの話に戻ります。三男・讃太郎は、昆虫学者さんが来たら幼稚園を自主休園。稲刈りが始まったら稲刈り休暇。相変わらずの自由人ぶりを発揮してはいるのですが、上の双子がすぐに飽きてしまうのに比べ、本当に農作業が好きみたい。コンバインにもずーっとチョコンと乗っています。いったい何を考えているんでしょうね。何はともあれ、父親が働いている姿が日常的に見える、というのは、ありがたいことです。息子たちがいつかここを出て行く時期もあるでしょう。彼らが農業をするかは分かりません。でも、お父さんが農作業をしている姿は彼らの脳裏に必ず残っているはず。そんなことをふと思った稲刈り初日でした。



さてさて、我が家の稲刈りは、お米の発送（18日）を挟んでまだまだ続きます。夏にお日様が照らなかつた分、できるだけ長く田んぼで成熟させたい。でもあんまり収穫が遅くなると、稲が倒れたり、お米が割れたり、またまた害虫やイノシシにやられたりしてしまう、もちろん台風も心配です。本当に悩ましいところです。今年はイノシシとの戦いが壮絶でした。田んぼに入りたいイノシシ。入らせないために、電柵やネットを張り巡らす人間。よそ

様からも稲刈りを頼まれる耕太は、しばらくコンバインに乗りっぱなしの日々となります。今シーズンのクライマックスですから、最後まで気を抜かずに頑張りたいと思います。どうぞ皆さまお元気でお過ごしください。

